



SXシリーズ漢字プリンタ対応／SXエミュレータ

対応機種：SX7000および互換コマンド機種

【 操作説明書 】

— Version 4.00 —

2022年11月



テキスト・アンド・グラフィクス株式会社

目 次

1. 概要	1
1. 1 製品構成	2
1. 2 変換性能	2
1. 3 動作環境	2
2. SXシステム設定ツール	3
2. 1 動作環境設定	3
2. 2 文字配列テーブル設定	5
2. 3 漢字書体テーブル設定	6
2. 4 外字/拡張フォントテーブル設定	7
2. 5 その他の設定	8
3. PDFコンバータ	10
3. 1 変換実行前の設定	10
3. 2 変換実行	12
3. 3 メニュー操作	13
4. エミュレーション動作指定	14
4. 1 DIPSEミュレーション	14
5. コマンドライン起動方法	15
6. データ加工コマンド	16
7. 制限事項について	17

1. 概要

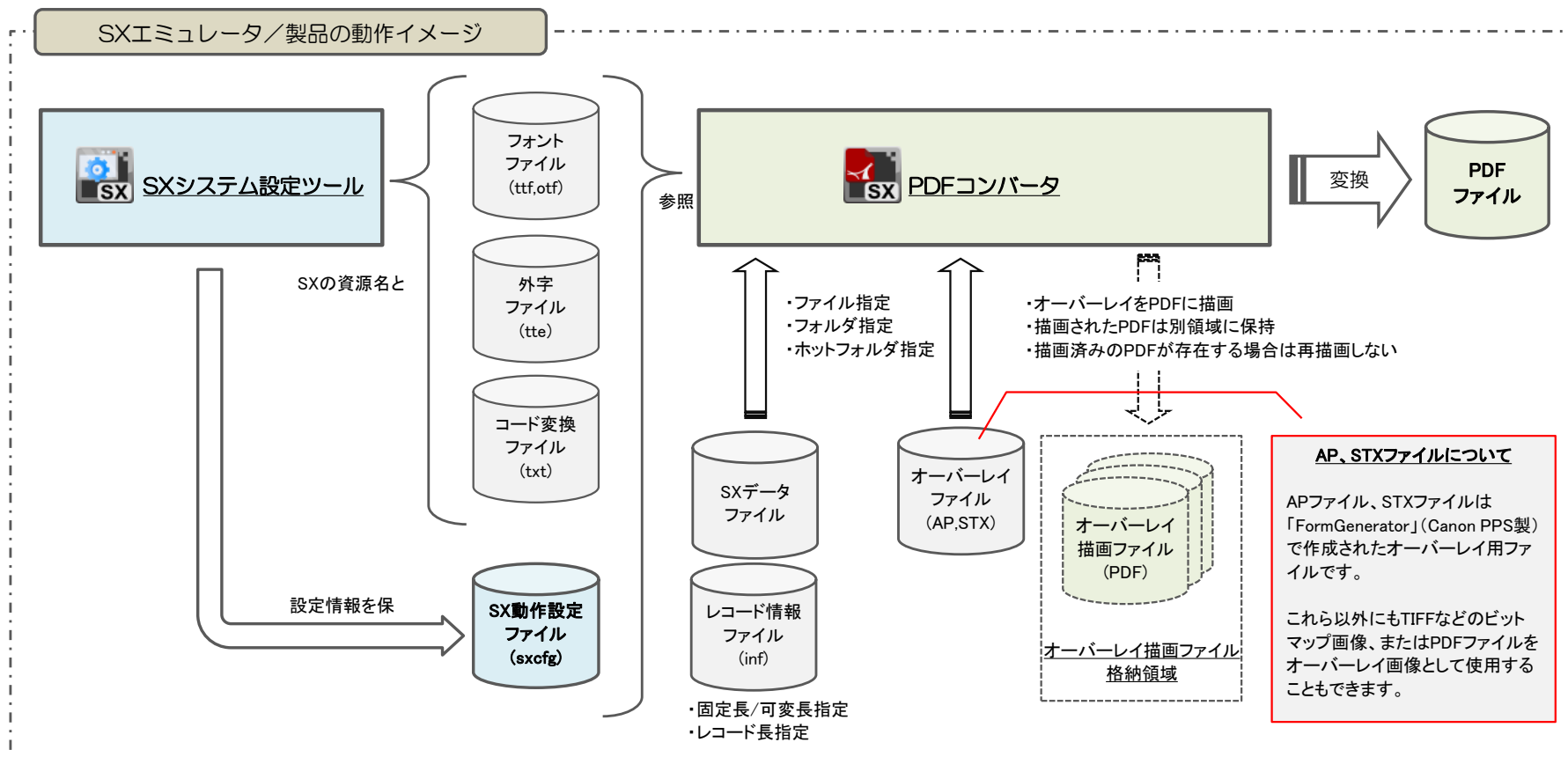
本製品は、昭和情報機器製「SXシリーズ漢字プリンタ」のエミュレーションを行う製品です。SXデータファイル、オーバーレイ用ファイルのコマンドを解釈し、エミュレーション動作を行いながら印字結果をPDFファイルへ出力します。SX特有のフォント資源はWindowsで使用できるTrueType、OpenType外字ファイルなどのリソースで代替して変換を行います。

※この製品は「SXシリーズ漢字プリンタシステム」仕様書に基づき開発されていますが、現在のバージョンでは一部対応されていない機能があります。詳細は「7. 制限事項について」をご参照ください。

1. 1 製品構成

本製品は、エミュレーションの動作環境、各資源の登録を行う「SXシステム設定ツール」、およびSXデータファイル・オーバーレイ用ファイルをPDFへ変換する「PDFコンバータ」の2つの製品で構成されます。

以下に、各製品の動作イメージを示します。



1. 2 変換性能

本製品のPDF変換性能は、A4サイズ、印字量はページサイズの40%程度で「60ページ～100ページ/秒」程度となります。この性能値は以下の機器スペックにて測定した結果です。

機器スペック	
プロセッサ	Intel Core i7 CPU 2600 (3.4GHz)
実装メモリ	8GByte
ディスク	SSD
OS	Windows10 Home

※性能値は、使用されるフォントサイズ、バーコード数、インラインで描画されるイメージの数により変化します。

1. 3 動作環境

本製品の動作環境は以下のようになります。

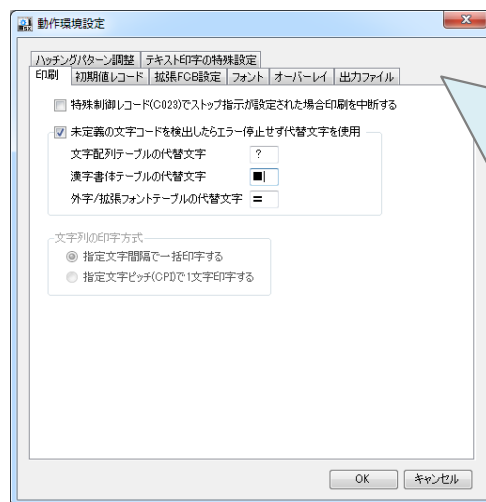
動作環境	
プロセッサ	マルチコアプロセッサ(3GHz以上)を推奨
実装メモリ	8GB以上を推奨
OS	Windows10 Home/Pro、Windows11 Home/Pro (64bit版)
.NET Framework	.NET4.0以上がインストールされていること
ディスク	50GB以上の空き容量のSSDを推奨
モニタ	WXGA(1280×768)以上の解像度が必要
表示ソフト	Adobe Acrobat/Reader
その他	USBポート ※ハードウェアキー装着用

2. SXシステム設定ツール

「SXシステム設定ツール」の機能について説明します。このツールは、SX仕様上で定義されている各資源（SXデータに含まれる資源名）とWindows環境でのフォントリソースなどを紐付けるための設定ツールです。また、バーコードの印字設定や各ファイルの格納場所などエミュレータ動作全般に関わる設定を行います。このツールで設定した内容は、sxcfgファイルとして保存ができますので、異なるエミュレーション環境を複数のsxcfgファイルで使い分けることが可能となります。

2. 1 動作環境設定

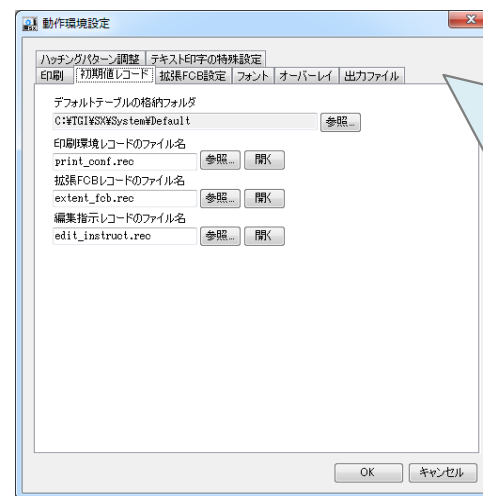
エミュレーション全般の動作環境を設定します。



【印刷】

SXデータをPDFへ変換する場合の印刷動作を設定します。

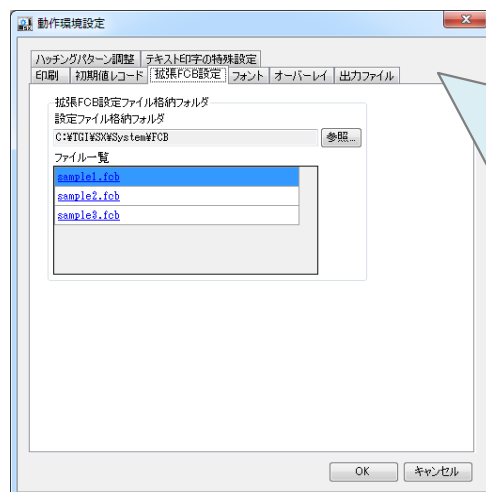
特殊制御レコード(X'CO23')発生時の印字動作エミュレーション、および未定義の文字コードが発生した場合の代替文字の設定を行います。



【初期値レコード】

SXデータで指定されない場合の初期値レコード情報を設定したファイルを指定します。

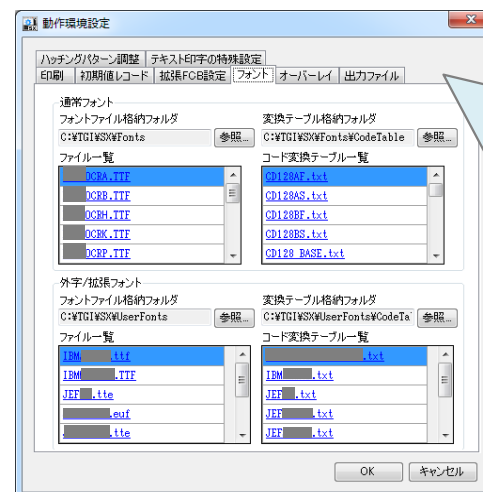
システム導入時には、SX仕様の初期値に基づいた値が予め設定されています。初期値レコードファイルは、CSVテキスト形式ですので簡単に編集が可能です。



【拡張FCB設定】

FCB名で指定される拡張FCB情報をテキストファイルとして登録します。

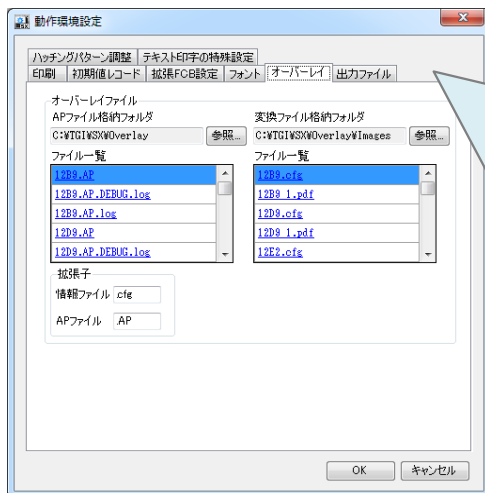
この機能は、拡張FCB登録データ(X'CO40')の動作をエミュレーションする機能です。



【フォント】

SXエミュレータで使用するフォントリソースフォルダ、および変換コードテーブルが格納されたフォルダを設定します。

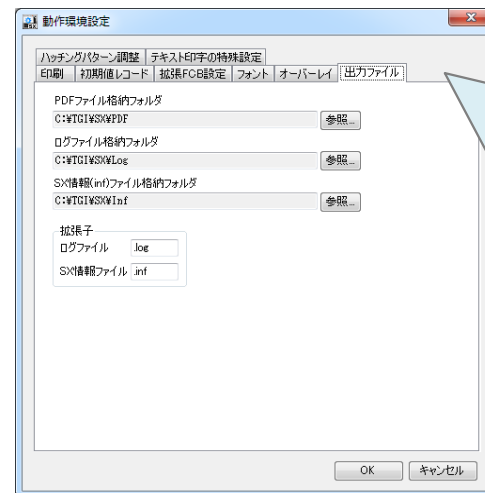
SXエミュレータの動作では、ここで設定されたフォルダからフォントリソース、変換コードテーブルが参照されます。



【オーバーレイ】

オーバーレイファイル(AP/STX)、およびオーバーレイが描画されたPDFファイルを格納するフォルダを指定します。

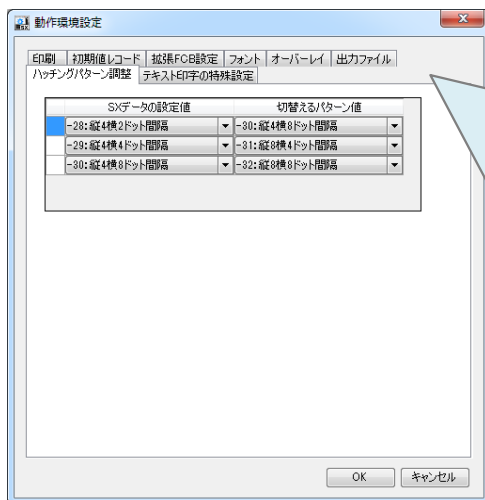
オーバーレイファイルは、描画されたPDFファイルが存在する場合には再描画は行われず、描画済みのPDFファイルが使用されます。



【出力ファイル】

変換されるPDFファイルの格納フォルダ、ログファイル格納フォルダ、およびSXデータファイルのレコード種別(固定長/可変長)・レコード長を示したテキストファイル(inf)の格納フォルダを指定します。

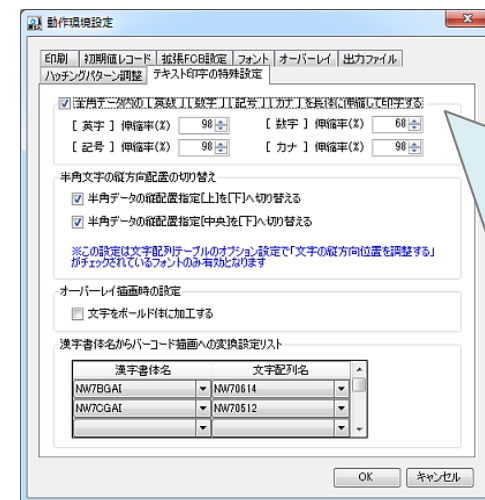
SXデータのレコード種別・レコード長はPDF変換時に画面上で指定することが出来ますが、フォルダー括変換、ホットフォルダ動作時にはinfファイルを作成してこのフォルダへ格納しておく必要があります。



【ハッチングパターン調整】

「図形・イメージ」レコードで指定されるハッチ指標値を置き換える設定です。

この設定は、SXデータで指定されているハッチ指標値より濃い/薄いハッチパターンに切り替えたい場合に使用します。



【テキスト印字の特殊設定】

文字の伸縮率や縦配置位置を設定します。

【全角データ内の[英数][数字][記号][カナ]を長体に伸縮して印字する】
この設定はSXデータで指定された文字の伸縮率を変更して印字したい場合に設定します。

【半角文字の縦方向配置の切り替え】
この設定はSXデータで指定された縦方向配置を変更して印字したい場合に設定します。

【オーバーレイ描画時の設定】
この設定はオーバーレイ文字をボールド体で印字したい場合に設定します。

【漢字書体名からバーコード描画への変換設定リスト】
この設定はバーコード描画する漢字書体名からドット描画する文字配列名に変換する場合に設定します。

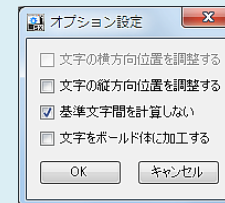
2. 2 文字配列テーブル設定

半角文字を印字するための文字配列テーブルの設定を行います。SXデータで指示される「文字配列名(TRC)」単位に登録を行います。システム導入時には主に使われる文字配列名が登録されています。これ以外の文字配列名を使用している場合には、ここで登録を行う必要があります。使用するフォントの指定は任意ですが、半角文字の印字にはOCRフォントを推奨します。

※本製品にはOCRフォントは付属しておりません。お客様がお持ちのフォントをご使用になるか別途ご購入ください。



文字のBold体変更ができません。OCRフォントの場合はベース位置の調整が可能です。

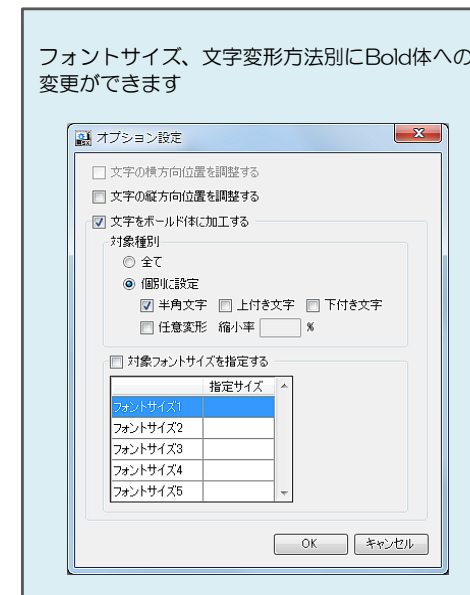


設定項目		設定内容
文字配列名		SXデータで指定される文字配列名を設定します
コード体系		文字配列名に定義されているコード体系を選択します(※バーコードの文字配列名は[*BAR]を選択します。バーコード以外の選択は任意です)
フォント名		使用するフォントファイルを選択します
インストールされたフォントファイル		WindowsのFontフォルダに存在しないフォントの場合、「新規」ボタンで選択したフォントがインストールされて表示されます
フォントサイズ	印字	PDF変換時に適用されるフォントサイズを設定します
	SX	SXデータで指示されるフォントサイズを設定します
文字ピッチ(CPI)		SX仕様上で文字配列名に定義されているCPI値を設定します
フォント伸縮	幅	選択されたフォントを伸縮して使用する場合の文字幅の伸縮率を設定します
	高さ	選択されたフォントを伸縮して使用する場合の文字高さ伸縮率を設定します
コード変換ファイル		使用するコード変換ファイルを選択します。コード変換ファイルは、システム導入時に予めインストールされていますのでこれらを選択します
オプション設定		文字のBold体指定、OCRフォントの場合のベース位置調整を設定します
コメント		任意のコメントが設定できます

2. 3 漢字書体テーブル設定

全角文字を印字するための漢字書体テーブルの設定を行います。SXデータで指示される「漢字書体名」単位に登録を行います。システム導入時には、SX仕様で定められている漢字書体名が予め登録されています。これら以外の漢字書体名を使用している場合には、書体名を新規登録する必要があります。使用するフォントの指定は任意ですが、ホスト系文字コードの漢字書体の場合は、ホスト専用フォントを使用する必要があります。

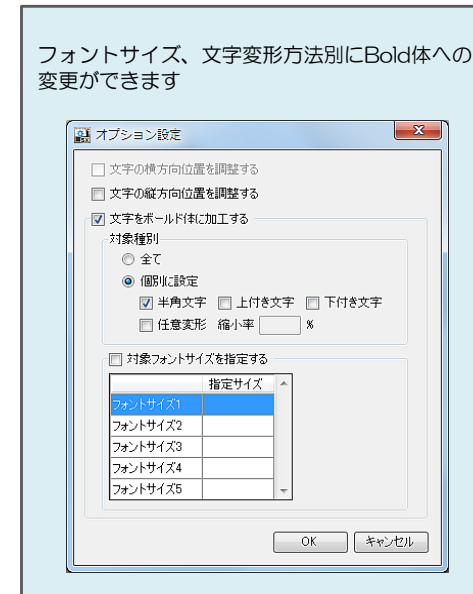
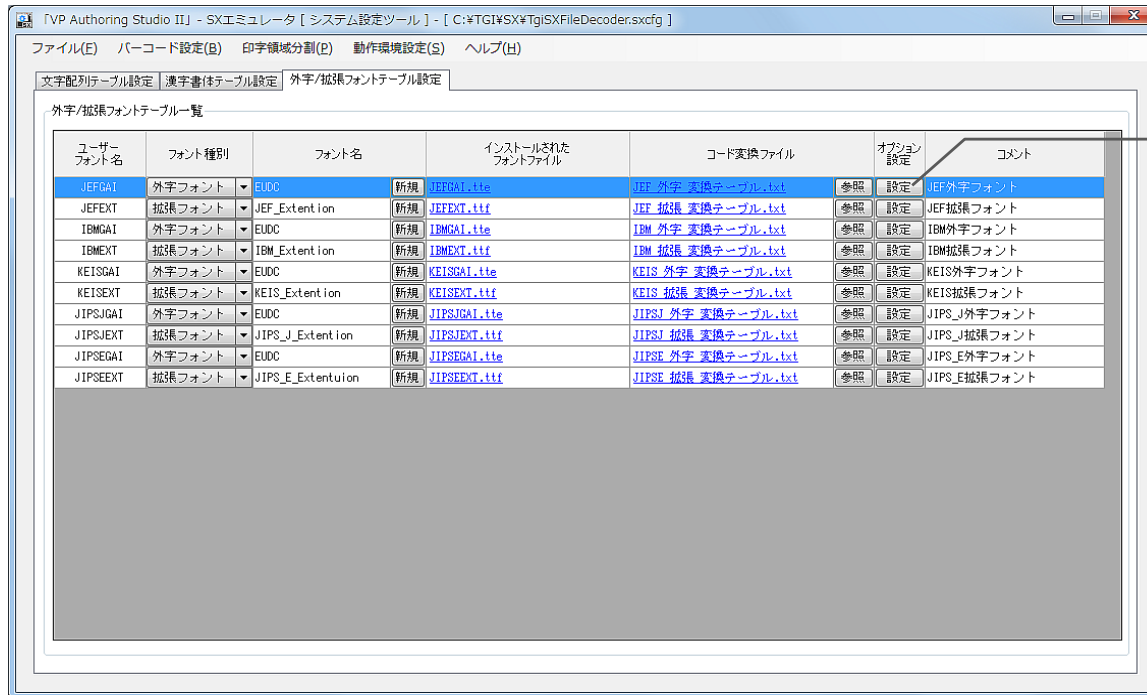
※本製品にはホスト専用フォントは付属しておりません。お客様がお持ちのフォントをご使用になるか別途ご購入ください。



設定項目	設定内容
コード体系	漢字書体名に定義されているコード体系を選択します
フォント名	使用するフォントファイルを選択します
インストールされたフォントファイル	WindowsのFontフォルダに存在しないフォントの場合、[新規]ボタンで選択したフォントがインストールされて表示されます
コード変換ファイル	使用するコード変換ファイルを選択します(※コード変換ファイルは、CSV/TAB区切りでホストコード⇒unicode順に定義されている必要があります)
コード検索優先順序	このテーブルで設定されている漢字書体フォントの文字コードと外字/拡張フォントの文字コードを検索する優先順序を設定します
オプション設定	文字変形、フォントサイズ別にBold体指定などを設定します
コメント	任意のコメントが設定できます

2. 4 外字/拡張フォントテーブル設定

外字、および漢字書体フォントに存在しない全角文字を印字するためのテーブルの設定を行います。SXデータで指示される「ユーザーフォント名」単位に登録を行います。システム導入時には、このテーブルは未設定となります。SXデータで使用されている外字コードに合わせてWindows標準のEUDC.tteファイル、またはこれらの文字が格納されているTrueTypeフォントを設定してください。



設定項目	設定内容
ユーザーフォント名	使用するフォントファイルを選択します
フォント種別	外字ファイル(tte)を使用する場合は[外字フォント]、TrueTypeフォントを使用する場合は[拡張フォント]を選択します
フォント名	[新規]ボタンで選択したフォントの名前が表示されます。任意の名前に変更することも可能です
インストールされたフォントファイル	WindowsのFontフォルダに存在しないフォントの場合、[新規]ボタンで選択したフォントがインストールされて表示されます
コード変換ファイル	使用するコード変換ファイルを選択します(※コード変換ファイルは、CSV/TAB区切りでホストコード⇒unicode順に定義されている必要があります)
オプション設定	文字変形、フォントサイズ別にBold体指定などを設定します
コメント	任意のコメントが設定できます

※「漢字書体テーブル」と「外字/拡張フォントテーブル」の文字コード検索順序は、漢字書体テーブルの「コード検索優先順序」で設定可能です。

- ・ [漢字書体] を優先とした場合：「漢字書体テーブル」⇒「外字/拡張フォントテーブル」の順に文字コードが検索されます。
- ・ [外字/拡張] を優先とした場合：「外字/拡張フォントテーブル」⇒「漢字書体テーブル」の順に文字コードが検索されます。

※何れにも登録されていない場合、SXシステム設定「動作環境設定」「印刷」で代替文字が定義されている場合はこの文字が印字されます。
代替文字が設定されていない(エラー停止設定)であればPDF変換が中止されエラー停止します。

2. 5 その他の設定

SXシステム設定では、SX仕様上で定義されている設定値を保持しています。これらの設定を変更することで印字状態のカスタマイズも可能となります。また、指定した矩形領域の印字データをPDFページの任意の矩形領域に移動させて印字されることも可能です。

2. 5. 1 バーコード設定

バーコード印字の設定を行います。システム導入時はSX仕様に合わせた値が予め設定されています。



【モジュール幅】

バーコード種類別にモジュール幅を設定します。

※予めSX仕様に合わせた値が設定されています。



【印字位置調整】

バーコード種類別に印字位置を微調整します。カスタマバーコード、CODE39などは印字位置を調整する値が設定されています。

※予めSX仕様に合わせた値が設定されています。

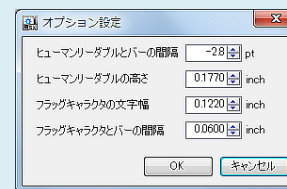


【ヒューマンリーダブル】

バーコードのヒューマンリーダブルで使用するフォント、フォントサイズ、文字配置をを設定します。また、バーとヒューマンリーダブルの印字間隔を設定します。

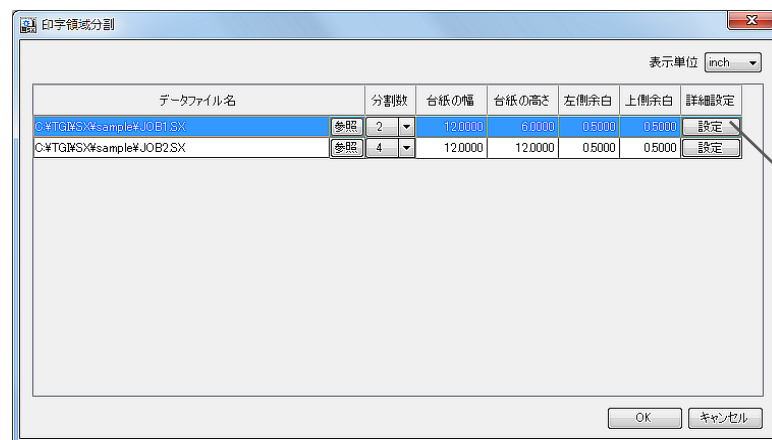
※予めSX仕様に合わせた値が設定されています。

SXの印字仕様に記載がないヒューマンリーダブルの印字位置が設定されています

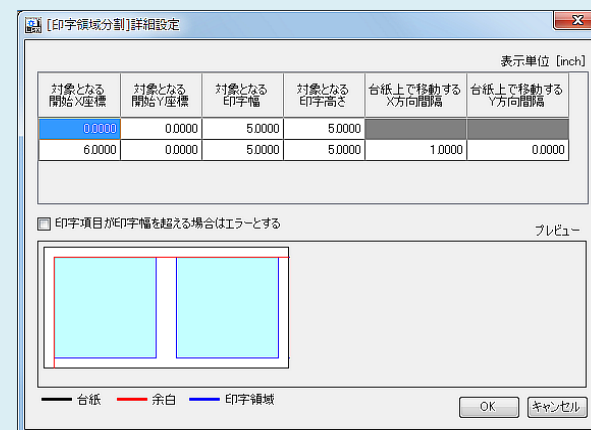


2. 5. 2 印字領域分割

SXデータの印字領域に対して、PDFページへ配置する位置を指定できます。また、SXデータのページサイズとは異なる台紙サイズを指定して、簡易的な面付け配置を行うことが可能です。



SXの印字領域に対して、台紙に配置する領域を登録します。印字データが領域幅を超える場合にはエラー停止する動作が指定可能です。

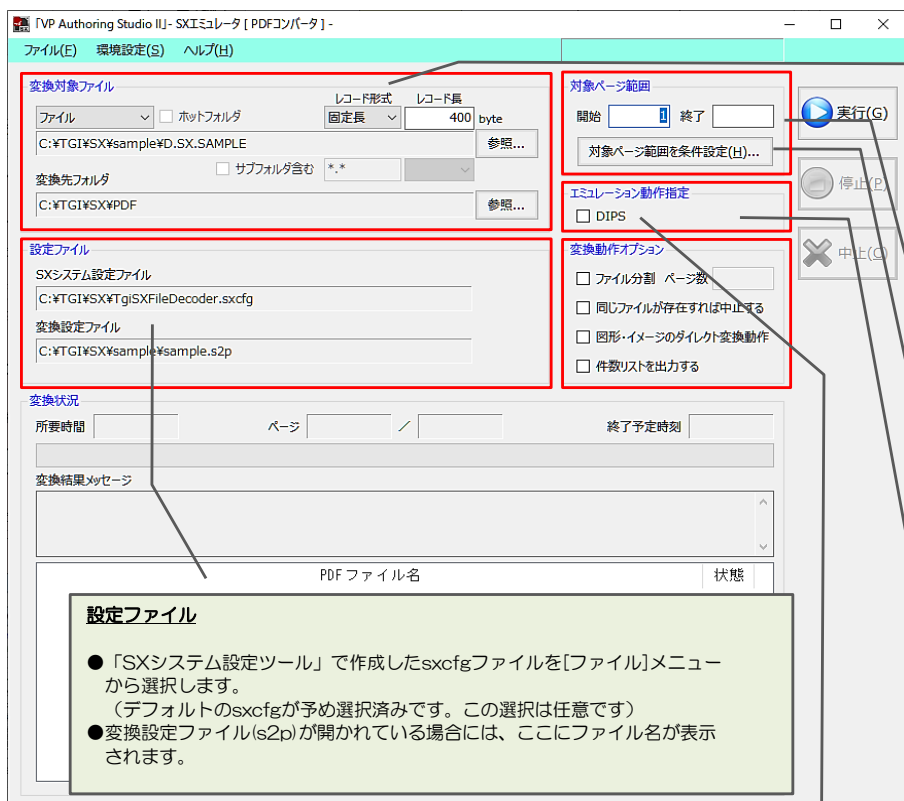


3. PDFコンバータ

「PDFコンバータ」の機能について説明します。この機能は「SXシステム設定ツール」で作成されたsxcfgファイルをもとに、SXデータファイル、およびオーバーレイ用ファイルをPDFファイルへ変換するための機能です。SXデータのコマンドを逐次解釈しながらPDFオブジェクトを生成して変換を行います。また、SXデータに指定されているオーバーレイ名をもとに、オーバーレイファイル格納フォルダにあるオーバーレイファイルをPDFに描画して使用します。SXデータで指定されているリソース資源名と指定されたsxcfgファイルに設定されているリソース資源を関連付けながらPDF変換を行います。

3. 1 変換実行前の設定

PDF変換を行う前に操作する内容を説明します。ここで設定される内容は変換設定ファイル(s2p)に保存が出来ます。次回変換時は、このs2pファイルを開くことで、再設定をすることなく変換が実行できます。



変換対象ファイル

- 変換対象となるSXデータファイルを選択します。選択は単一ファイル、またはフォルダ一括で指定できます。
- フォルダ指定の場合はホットフォルダの指定、およびサブフォルダ検索有無、ワイルドカード指定が可能です。ホットフォルダ指定で動作中の場合は右上に「ホットフォルダを監視中...」のメッセージが定期的に表示されます。ホットフォルダ動作で処理されたSXデータファイルは対象フォルダの配下に「HotFolderMovedFiles」フォルダを作成しこのフォルダへ移動します。
- レコード形式は[可変長/固定長]、レコード長はバイト長を指定します。選択されたSXデータファイルにinfファイルが設定されている場合には、これらは自動で表示されます。
- 変換先フォルダはSXシステム設定で指定されているフォルダが表示されますが、任意のフォルダに変更ができます。

対象ページ範囲

- 変換対象とするページ範囲を指定します。未指定の場合は全ページが対象となります。

対象ページ範囲を条件設定

変換対象とするページ範囲の条件指定が可能です。ページの繰り返し単位に任意のページ範囲の指定およびSXデータに含まれるunicode変換後の文字列を指定した抽出が可能です。

※詳細は次ページを参照してください

変換動作オプション

- ファイル分割**
PDF変換時に、PDFファイルを分割する設定が可能です。分割するページ数を指定します。分割されたPDFファイル名には枝番が付加されます。
- 同じファイルが存在すれば中止する**
変換対象となる同じ名前のPDFが存在する場合は変換を停止します。この設定がOFFの場合には、同名のPDFファイルは上書きされます。
- 図形・イメージのダイレクト変換動作**
SX付属のプリンタドライバで生成されたデータファイルを変換する時にはONに設定します。
- 件数リストを出力する**
変換先フォルダにPDFファイル毎の変換ページ数リストがCSV形式で出力されます。

設定ファイル

- 「SXシステム設定ツール」で作成したsxcfgファイルを[ファイル]メニューから選択します。
(デフォルトのsxcfgが予め選択済みです。この選択は任意です)
- 変換設定ファイル(s2p)が開かれている場合には、ここにファイル名が表示されます。

エミュレーション動作指定

「4. エミュレーション動作指定」を参照してください

変換動作オプション

PDFファイルを指定したページ数で分割して作成することができます。

対象ページ範囲を条件設定

● 繰り返し条件を設定

奇数/偶数ページを抽出する場合、特定のページ番号を指定する場合に設定します。

抽出ページの指定には、カンマ区切りによるページ番号の指定、ハイフン区切りによるページ番号の範囲指定が可能です。

[例]

10ページ単位に1,3-5,7,8ページ目のみ

→10ページごとに1,3,4,5,7,8の計6ページが抽出対象となります。

● ページ内の文字列を検索して判定

1括りが可変ページ数のマルチページで宛名ページのみ抽出したい場合、郵便番号の上3桁が指定した値のページを抽出したい場合、特定の名前を含むページのみ抽出したい場合に使用します。

マッチング対象のページ内テキスト範囲はフィールドとして認識される範囲が1区切りとなります。

(住所など複数に印字されている場合は別フィールドとして認識されます)

※この抽出方法では、ページ内のテキスト情報をマッチング検索しますので、条件の設定によっては変換性能が低下する場合があります。

< マッチング方法 >

完全：検索データと完全一致するか判定します

前方：検索データが前方に含まれるか判定します

後方：検索データが後方に含まれるか判定します

任意：検索データが含まれるか判定します

< 複合条件 >

全て+含む：指定された検索データを全て含む場合に対象となります

全て+含まない：指定された検索データを全て含まない場合に対象となります

何れか+含む：指定された検索データを何れか含む場合に対象となります

何れか+含まない：指定された検索データを何れか含まない場合に対象となります

繰り返し条件を指定

変換範囲を条件設定
×

条件を設定して対象ページを抽出

繰り返し条件を指定

ページ単位に
 ページ目のみ

ページ内の文字列を検索 ※Unicode変換後の文字列(例>A01-0001)

マッチング方法

 完全
 前方
 後方
 含む

上記文字コードを
 全て
 何れか
 含む
 含まない

ページ内のテキストを検索して判定

変換範囲を条件設定
×

条件を設定して対象ページを抽出

繰り返し条件を指定

ページ単位に
 ページ目のみ

ページ内の文字列を検索 ※Unicode変換後の文字列(例>A01-0001)

マッチング方法

 完全
 前方
 後方
 含む

[完全] 00000007#

[完全] 00000008#

[完全] 00000009#

上記文字コードを
 全て
 何れか
 含む
 含まない

3. 2 変換実行

PDF変換の実行操作を説明します。変換実行は「実行」ボタン押下のみの操作です。変換実行中は、所要時間・終了予定時刻、および進捗ステータスが表示されます。また、何らかのエラーが発生した場合には変換結果メッセージに詳細内容が表示されます

変換状況
所要時間 00:00:05 ページ 9 / 10 終了予定時刻

変換終了

変換結果メッセージ
正常終了しました

PDF ファイル名	状態
C:\WTGI\%X%\PDF\%sample%le%D.SX.SAMPLE.pdf	✓

変換動作指示

【実行】
PDF変換を実行します

【停止】
PDF変換を停止します。再度押下することで変換を再開します。

【中止】
PDF変換を中止します。
実行中の場合は、一旦停止して中止を行います。

変換状況

- PDF変換中は、所要時間、進捗状況（変換ページ数）、および終了予定時刻（目安）が表示されます

変換結果メッセージ

- PDF変換が終了時には、変換結果のメッセージが表示されます。エラーが発生した場合には、詳細のエラー内容が表示されます。

変換結果のPDFファイル一覧

- 変換されたPDFファイル名の一覧が表示されます。ダブルクリックで変換されたPDFファイルを開くことができます（この操作にはAcrobat Readerがインストールされている必要があります）
- エラーが発生したPDFの場合は[×]アイコンが表示されます。ダブルクリックでエラー詳細を確認することができます。

3. 3 メニュー操作

「PDFコンバータ」のメニュー操作について説明します。

3. 3. 1 「ファイル」メニュー

(1) 「SXシステム設定を切り替え」

PDF変換時に参照されるsxcfgファイルの切り替えを行います。特に切り替えを行わない場合は「環境設定」メニューで設定されているファイルが参照されます。
sxcfgファイルは「SXシステム設定ツール」で作成される設定ファイルです。

(2) 「変換設定を開く」

予め作成しておいたs2pファイルを開きます。s2pファイルはPDF変換時の画面設定内容が保存されたファイルです。

(3) 「変換設定を保存」

現在設定されている内容でs2pファイルを作成します。

(4) 「変換設定を閉じる」

現在開かれている変換設定ファイルを閉じます。画面表示は初期状態に戻ります。

(5) 「終了」

PDFコンバータを終了します。

3. 3. 2 「環境設定」メニュー

(1) SXシステム設定ファイル

特定のsxcfgファイルが指定されていない場合に参照されるファイルです。

(2) 変換時のトレース情報出力

PDF変換時にトレース情報を出力する場合に指定します。**※トレース情報を出力した場合は変換性能が低下します**

①なし

トレース情報を出力しません（デフォルト）

②レコード情報を出力

SXデータファイルのレコード単位の情報のみ出力します

③ダンプ情報を出力

SXデータファイルのレコード情報およびデータのダンプ情報を出力します ※この選択は運用時には非推奨です

④デバッグ情報を出力

SXデータファイルのレコード情報およびデータのダンプ情報およびPDF変換の詳細情報を出力します ※この選択は運用時には非推奨です

⑤ユーザーフォント情報を出力

ユーザーフォントから参照された文字コード情報を出力します ※外字出力確認用リストとして利用できます

4. エミュレーション動作指定

ホストコンピュータ特有のプリントトランザクションデータの印字制御をエミュレーションしてSXデータへコンバージョンしてPDF変換を行う機能です。このバージョンでは「DIPS(NTT製ホストコンピュータのPITデータ)エミュレーションのみに対応しています。

4. 1 「DIPS」エミュレーション

4. 1. 1 エミュレーション名および各フォルダ

- | | |
|----------------|----------------------------|
| ●エミュレーション名 | ・・・DIPS |
| ●定義ファイル格納フォルダ | ・・・C:¥TGI¥SX¥DIPS |
| ●PITファイル格納フォルダ | ・・・C:¥TGI¥SX¥DataFile¥DIPS |
| ●オーバーレイ格納フォルダ | ・・・C:¥TGI¥SX¥Overlay¥DIPS |

(1) 定義ファイル格納フォルダ

このフォルダにはDIPSデータファイルと関連付けされた帳票リストファイルと各帳票の変換定義ファイルを格納します

- ・帳票リストファイル名 ・・・FileNameList.txt
- ・変換定義ファイル名 ・・・{任意の名前}.dpcfg

①帳票リストファイルの内容 ※CSV形式、1列目はPITファイル名、2列目は変換定義ファイル名

```
TEST01.dat, TEST01.dpcfg
TEST02.dat, TEST02.dpcfg
TEST03.dat, TEST03.dpcfg
~~~~~
```

②変換定義ファイルの内容 (一部抜粋) ※定義内容の詳細仕様につきましては別途お問合せください

```
#-----
# DIPSデータ変換定義 ID=TEST01
#-----
<Paper>
Size=16.0inch, 4.5inch
Offset=0.5inch, 0.23inch

<Overlay>
0x0100=None
0x0101=SDI_01, 0.0inch, 0.0inch
0x0102=SDI_02, 0.0inch, 0.0inch

<LineSpacing>
1-22=0.1667inch
~~~~~
```

(2) PITファイル格納フォルダ

このフォルダにはPITデータファイルおよび*.linfファイル、*.sinfファイルを格納します。格納されたPITデータファイルは「帳票リストファイル (FileNameList.txt)」に登録されているかをチェックします。登録されていないPITデータファイルは変換処理を行いません。

(3) オーバーレイ格納フォルダ

このフォルダにはPDF変換時にオーバーレイされる背景画像ファイルを格納します。格納されるファイル名(拡張子を除く)は「変換定義ファイル」の<Overlay>グループで定義されているオーバーレイ名(1カラム目)と一致させておく必要があります。

5. コマンドライン起動方法

「PDFコンバータ」は以下の方法でコマンドラインより起動することができます。

- (1) コマンドファイル格納フォルダ
C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0
- (2) コマンドファイル名
TgiSXFileDecoder.exe
- (3) コマンド引数
第1引数=変換動作設定ファイル (s2pファイル名)
第2引数=即時実行指定 (“-run”)
- (4) プロセス終了値
正常終了=0
異常終了=1以上 (単一ファイル選択の場合は1、フォルダ選択の場合はエラーとなったファイル数)
- (5) コマンド起動例
C:¥TGI¥VP Authoring Studio 2.0>TgiSXFileDecoder.exe sample.s2p -run

<件数リストファイル内容>

- 出力ファイル名
ファイル指定の場合: 変換されたPDFが格納されるフォルダに“入力ファイル名”.csv の名前で作成される
フォルダ指定の場合: 変換されたPDFが格納されるフォルダに末尾の“フォルダ名”.csv の名前で作成される
- 文字コード=Shift-JIS
- 改行コード=CR/LF
- 項目の区切り文字=TAB(0x09)
- 項目=1列目:出力日時 2列目:出力フォルダ 3列目:PDFファイル名 4列目:変換ページ数 5列目:正常/異常

出力例)

2022/11/01 20:44:55	C:¥TGI¥SX¥PDF	TEST01. pdf	182	正常
2022/11/01 20:45:02	C:¥TGI¥SX¥PDF	TEST02. pdf	64	正常
2022/11/01 20:45:12	C:¥TGI¥SX¥PDF	TEST03. pdf	45	正常
2022/11/01 20:45:19	C:¥TGI¥SX¥PDF	TEST04. pdf	0	異常
2022/11/01 20:45:26	C:¥TGI¥SX¥PDF	TEST05. pdf	897	正常
2022/11/01 20:45:32	C:¥TGI¥SX¥PDF	TEST06. pdf	15	異常

- (6) 留意事項
s2pファイルの動作設定が「ホットフォルダ」に設定されている場合はコマンドを起動した後にホットフォルダの監視動作に入ります。
この場合はコマンドが自動終了することはありません。

6. データ加工コマンド

実データをサンプルデータに変換するコマンドです。テストデータ作成用として使用してください。

<置き換えの仕様>

- 全角文字はひらがなの「あ」に書き換えます。
- 半角文字は英字・数字・カナの文字種別に代表文字(数字は'O',英字は'A'/'a',カナは'ア')に置き換えます。但し、記号はそのまま格納されます。
- バーコードデータは置き換えしません。
- 図形・イメージレコード内の文字列は置き換えしません。

<使用例>

コマンドプロンプトを起動し、カレントディレクトリを[[インストールフォルダ]¥VP Authoring Studio 2.0]に移動します。

[オプション]

```
-f      . . .   固定長レコード指定
-v      . . .   可変長レコード指定
-rZZZ9 . . .   レコード長指定(※固定長の場合のみ有効)
```

[例]

```
固定長レコード形式ファイルの場合   SxFileMod -f -r400 入力ファイル名
可変長レコード形式ファイルの場合   SxFileMod -v 入力ファイル名
```

- ※書き換え後のファイルは.sampleの拡張子を付加して同じフォルダに別名保存します。
- ※書き換え結果の詳細は.logの拡張子が付加されたログファイルで確認できます。
- ※書き換えに失敗した場合にはエラーが表示されます。

7. 制限事項について

本製品の制限事項について示します。

(1) 「制御レコード」について

●[X' COA1']編集指示レコード

※現バージョンでは「編集指示レコード」のページ分割形式指定には対応していません。

ページ分割が指定された場合は、弊社関連製品「PDFページ面付けユーティリティ」の設定ファイルを出力します。この設定ファイルを使用して別途面付け操作が必要となります。また、「編集指示レコード」においては論理ページサイズ=物理ページサイズと見なしてPDF変換を行います。

⇒この制限事項は、別途カスタマイズにより対応可能です。

●未対応の制御レコード

※現バージョンでは、以下の制御レコードには対応していません。

[X'COA8']オーバーレイ開始レコード
[X'COA9']オーバーレイ継続レコード
[X'COAD']資源クリアレコード

⇒この制限事項は、別途カスタマイズにより対応可能です。

(2) 「図形・イメージ印刷レコード」について

※現バージョンでは、以下に示す描画コマンドには対応していません。

また、以下の描画のみに関わる「属性要素」「モード設定要素」「図形データ制御モード設定要素」にも対応していません。

制御コード	描画コマンド名称
[X' 407F']	マーカー列
[X' 413F']	セル配列
[X' 41AC']	3点指定円弧
[X' 41CE']	3点指定閉円弧
[X' 41EE']	軸指定円弧
[X' 4210']	軸指定閉円弧
[X' 4254']	楕円弧
[X' 4276']	閉楕円弧
[X' 415F']	格子線

⇒この制限事項は、別途カスタマイズにより対応可能です。

(3) 「ライブラリ登録用ファイル」について

※現バージョンでは、ライブラリ登録用ファイルでの資源登録には対応していません。

⇒この制限事項は、別途カスタマイズにより対応可能です。